

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493300105	事業の開始年月日	平成22年10月1日
		指定年月日	平成22年10月1日
法人名	株式会社たちばなベスト		
事業所名	グループホームおもとの郷東本郷		
所在地	(〒226-0002) 神奈川県横浜市緑区東本郷5-2-19		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和7年1月16日	評価結果 市町村受理日	令和7年4月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・手作りの食事を3食提供しております。 ・ご本人とご家族の思いを尊重し状態を把握、医療と連携をとりながら自立したした生活が送れるよう支援しています。 ・施設の前が公園なので四季折々の花や草木に触れながら散歩しています。 ・地域の行事の情報収集を行い参加を促し、地域住民との関わり合いがもてるよう努力しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年3月5日	評価機関 評価決定日	令和7年4月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR横浜線「小机」駅または「鴨居」駅から横浜市営バスで約10分、「泉谷寺団地」または「東本郷町」で下車し徒歩5分ほどの住宅地にあります。事業所直ぐ目の前にある「東本郷下田公園」は木々や花壇が美しく、日常的な散歩コースになっています。法人は横浜市、川崎市、千葉市で複数の福祉施設を運営しています。 <優れている点> 法人の理念は「ご利用者様から見て」私たちがどうあるべきかという視点に立ち、常に「明るく」「清潔に」「優しく接し」「心配りが行き届いている」事を掲げ、職員に説いています。職員は理念を常に心掛けたケアに努め、利用者に歩み寄り、いつも会話があるように話しかけ、利用者が淋しい気持ちにならないように心掛けて温かい雰囲気づくりに努めています。 <工夫点> 職員が利用者の見えるところで調理することで、食事への意欲が高まるようにしています。できるだけ自力で食べられるよう調理形態や盛り付け、食器を個別に調整しています。誕生日には利用者の希望を聞き、好きなスイーツを利用者と共に作っています。クッキーの型抜きやホットケーキ作り、あんみつのトッピングなど利用者に楽しんでもらう工夫をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームおもとの郷東本郷
ユニット名	すみれ

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	カンファレンスにて理念に基づいたケアについて話し合いができています。	法人としての理念を掲げ、玄関や事務所に掲示しています。職員が常に理念を心掛けていけるように努めています。利用者から見て職員がどう見えるかを理念として掲げ、心配りが行き届いたケアに努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域ケアプラザ等、行事情報を集め参加できる様、努力している。	事業所のすぐ近くに地域ケアプラザがあり、利用者と共にケアプラザまつりに参加しています。ゲームやステージ、わたあめなどを楽しんでいます。事業所前の公園に散歩に出かけ近所の方々とあいさつを交わしています。子どもや赤ちゃん、散歩中の犬などに声を掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	支援方法を地域の人々に向け活かすことはできていない。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在の取り組み状況を報告し意見、質問を受け、回答。今後の運営に活かしている。	2ヶ月に1度開催しています。ケアプラザ職員、老人クラブ理事、区老連理事などの参加を得ています。事業所の活動内容について細かく報告し意見をもらい運営に生かしています。ケアプラザからは行事の案内や、入居希望者の紹介など情報を得ています。避難訓練やBCPについての情報交換も行なっています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の際、お伝えし協力関係を築くよう努力している。	区の生活保護担当課と連絡を取り、入居者支援を行っています。区には運営推進会議の報告書を毎回提出しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	研修を行い、ミーティングや日々の送りの中で、再確認し身体拘束等、しないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合は時間を決めご家族に同意の上、行うようにしている。	全職員を対象に定期的に研修を行っています。管理者は毎月法人が実施する身体拘束・虐待防止委員会に参加しています。委員会の内容は職員に報告し周知・共有しています。月1回のカンファレンス開催時に話し合いを重ね、気になる声かけなどがある場合は現場での指導も行っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を行うことで、各自の意識向上を図っている。	身体拘束と同様に、定期的な研修、委員会を実施しています。職員のメンタルにも気を配り、虐待などにつながる事のないように積極的に声を掛け相談に乗っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会、話し合いはできていないと思われる。今後、社内研修にて学ぶ機会を持つようにすることに努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご本人、家族の意向を伺い、丁寧に説明を行い、理解、納得していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、家族等の意見を伺い、反映し主体となった運営をしている。	家族が来所した際には近況報告をし、意見や要望を伝えやすい環境づくりに努めています。毎月お便りに写真やコメントを載せ利用者の様子を伝えています。コロナ禍を経て、家族会を再開したいと考えています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が定期的に現場に入り、職員の意見を聞いている。	月1回、フロアごとのカンファレンスを開催し職員と情報交換しています。また、朝夕の申し送りなどでも意見を聞き出しています。行事の企画などは職員の得意分野を活かした提案を引き出し、企画実行しています。業務改善の提案なども活かしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務にやりがいモチベーション向上するよう、職務を担当性を用いたりしている。	管理者は職員に積極的に声を掛け、悩みや相談などに乗るように努めています。困ったことがあれば何でも言える雰囲気づくりを心掛けています。必要に応じて個別での相談に乗り働きやすい環境づくりに努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	カンファレンスの際に、内部研修を行なっている。自発的に研修を受け対職員には日程調整をしている。	年間研修計画を作成し、毎月職員向けに研修を実施しています。外国籍の職員に対しては定期的に法人全体で集合研修を行っています。新入職員にはスケジュールに基づき先輩職員が担当してOJTを実施しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会主催の研修「感染症対策」「リスクマネジメント」の研修に参加し質の向上の取り組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初期の不安を払拭させるよう、できる限り声がけし、安心してもたえるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの経緯、要望等、話を伺った内容の記載が個別にファイリングしているので、職員が閲覧し理解を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族の必要な支援を伺い、職員で共有、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の不安、喜びを共有しながら心許せる関係性を築ける様、努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会、電話、手紙等、関係性が継続できる様、支援している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人関係等、手紙、面会、電話にて関係性が継続できる様、支援をおこなっている。	家族などに加え知人・友人などが面会に来ることもあります。電話の取り次ぎや手紙やはがきの返信などの支援を行っています。洋裁が趣味の利用者には縫い物の手伝いなどをしてもらっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係性の変化を把握しながら、席替え、職員が間に入る、声がけ等、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後のご家族の連絡等、対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、声掛けを行い、表情や発言等で意向、思いを把握するよう心掛けている。	本人だけでなく家族からも意向を聞き取っています。散歩や入浴の時間を利用して利用者とのコミュニケーションを深めています。ゲームなど新しいことを提案し、利用者が試しにやってみたときの様子から、どんなことに興味があるか探ることもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	暮らし方等、記載されている書面を読む、ご家族訪問の際にお話を聞くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人のできること、楽しめること、興味のあることを把握し、生活の中に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族とケアについて話しをしている。カンファレンスの際、担当者会議で必要なケアを職員と共有している。	家族には毎月近況を個別に送り、ホームでの面談または電話連絡で意見交換を行っています。計画作成担当者が日々の職員のケア記録や申し送りを反映させた介護計画更新案を作成し、施設長と協議した後にカンファレンスを開いて計画内容を確定させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録、申し送りノートに記載し、職員間で共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族の要望を聞き取り、サービスに反映させている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	施設前の公園に散歩をした際、近隣住民と話しをしたり、地域ケアプラザの行事に参加したりと楽しんでいただけるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医のもと、定期的（月2回往診）、必要時に適切な医療が受けられている。	全利用者が事業所指定の診療所の訪問診療を受けています。診療科には内科のほか皮膚科・精神科があり、連携して治療に当たっています。またほとんどの利用者が週1回の訪問歯科も利用しており、口腔ケア指導や嚥下機能検査を受けています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の状態、変化を週1訪問看護へ報告、相談し、医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に病院関係者との情報交換は行なっているが、場合に備えての関係づくりまではできていない。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人、ご家族と話し合い、施設で可能なケアを伝え、納得、方針を考えている。地域の方々には運営推進会議で報告し、理解していただく様、努めている。	入居時だけでなく終末期が近づいた段階で家族に丁寧に指針内容を説明し同意書を受け取っています。看取りの経験のある職員が数名います。今年度も看取り期の利用者がおり、緊急連絡網の確認を行うとともに、訪問看護師から看取りについて説明を受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	カンファレンス、社内研修、申し送り等で対応の方法を共有し実践に繋げている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を定期的に行い、運営推進会議にて報告、地域の方々に意見を伺っている。	避難訓練を年2回実施しています。2階にはベランダごとに下降する避難装置を設置しています。各居室のドアに歩行能力や避難優先順位を明記しています。地域の方が非常時の見守りなどを申し出ています。オール電化のため、各フロアに発電機を導入しています。	備蓄品がありますが、3日分には足りていないものもあるので、買い足して十分に確保しておくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの思い、人格を尊重するよう声掛けをおこなっている。	利用者の予期せぬ行動に対して、いきなり注意するのではなく、その理由を考えるようにしています。不適切な表現をどう言い換えればよいか、個人ワークで各自が考えています。虐待やユマニチュードの研修から個人の尊厳を重視したケアを学んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自身がどのようにしたいか、希望を伺い、自己決定できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の思いの時間、都合に合わせた支援になっていることもあるが、できる限り一人ひとりのペースに合わせるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その方の好み、思いを重視する支援を行っている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューが決まっていることから好みの食事を召し上がっていただくことは厳しいが行事等には御本人の好みのものを提供するよう努力している。コップを下げる、テーブル拭き、トレイ拭きはお手伝いしていただいている。	職員が利用者の見えるところで調理することで、食事への意欲が高まるようにしています。できるだけ自力で食べられるよう調理形態や盛り付け、食器を個別に調整しています。片付けの手伝いだけでなく、恵方巻やホットケーキなどの調理機会も設けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご本人の状態を把握、職員で共有し状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとり食後に口腔ケアのお声掛けをし、見守り等行いながら口腔ケアをおこなっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人の力、習慣を把握し發揮していただきながら自立した排泄ができるよう、支援している。排泄の失敗が減るよう定時に声掛け、誘導を促している。	個別の声掛けと誘導で、利用者がタイミングよくトイレに行けるようにしています。車いすからの移乗が楽な便器や2名で介助できるトイレなどハード面の排泄支援にも力を入れています。利用者の負担額を考慮し、パッドのサイズを時間帯によって変えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	原因、影響を職員間で情報共有し、個別で予防案を考え取り組んでいる。体操、散歩などの運動を毎日取り入れ、水分摂取を把握し便秘の予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとり入浴時に会話をし楽しんでリラックスできる支援を心掛けています。体調が優れない方、入浴拒否の方に対して無理をせず、別日にご案内するなど、ご本人の気持ちを重視している。	通常の入浴に加えて、体が汚れたときのシャワー浴も適宜行っています。縁のない畳を浴室に敷くことで、床面の感触を良くするとともに滑りにくくしています。入浴時は利用者と積極的にコミュニケーションを取り、楽しんでもらえるよう心がけています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	職員間で情報共有し、生活リズム、状態に合わせ、休息、睡眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情を個別ファイリングし、職員が定期的に確認、状態に変化がある場合は話し合い、医療に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご自身の嗜好品、生活歴を把握し、楽しめるものを探し、提案している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に散歩に行かれるよう支援している。本人の希望を把握し戸外に出かけるよう努力している。四季の花々を観にドライブに出かけたりして外出の機会を増やしている。	年に数回ドライブを企画し、散歩が難しい利用者也季節ごとの花や紅葉を楽しんでいます。家族との外出や旅行は積極的に支援しています。コロナが終息し地域の行事が再開されてきたので、今年は夏祭りや盆踊りへの参加も検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理ができる方は使用できるよう支援し、その他の方々はご家族、後見人が管理している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	四季に合わせたカードを作成、コメントを書いていたいただき、ご家族に送る支援をおこなっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	行事、季節を取り入れた飾りや壁画等ご入居者様と制作し飾ることで、温かみのある空間を作っている。	エアコンを適切な時期に買い替え、設定どおりの温度が保てるようにしています。壁にマイナス電位溶剤を塗布することで効果的な消臭を行っています。利用者が毎月制作している季節に合った壁画に加え、吊るし飾りなどで四方を飾り、リビングダイニングをわくわくする共有空間にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースでは、気の合った方と過ごせるよう、娯楽、レクリエーションの際は席を移動し対応している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人、ご家族の意向を尊重し馴染みのある家具、好みのものを置いている。	居室ごとに洗面台がついており、自室で洗面が可能です。ベッド、エアコンなどは備え付けですが、それ以外は利用者が好みのものを置いています。転倒の危険のある利用者のベッドにはセンサーを設置し、ADLの低下により居室のベッドで寝て過ごしている人の部屋にはBGMを流すなどもしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人ができることを継続していただきながら、他にできることを職員が見つけ、提案、見守りながら一緒に行っている。		

事業所名	グループホームおもとの郷東本郷
ユニット名	なでしこ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	カンファレンスにて理念に基づいたケアについて話し合いができています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域ケアプラザ等、行事情報を集め参加できる様、努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	支援方法を地域の人々に向け活かすことはできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在の取り組み状況を報告し意見、質問を受け、回答。今後の運営に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の際、お伝えし協力関係を築くよう努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	研修を行い、ミーティングや日々の送りの中で、再確認し身体拘束等、しないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合は時間を決めご家族に同意の上、行うようにしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を行うことで、各自の意識向上を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会、話し合いはできていないと思われる。今後、社内研修にて学ぶ機会を持つようにすることに努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご本人、家族の意向を伺い、丁寧に説明を行い、理解、納得していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、家族等の意見を伺い、反映し主体となった運営をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が定期的に現場に入り、職員の意見を聞いている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務にやりがいモチベーション向上するよう、職務を担当性を用いたりしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	カンファレンスの際に、内部研修を行なっている。自発的に研修を受け対職員には日程調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会主催の研修「感染症対策」「リスクマネジメント」の研修に参加し質の向上の取り組みをしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初期の不安を払拭させるよう、できる限り声がけし、安心してもらえるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの経緯、要望等、話を伺った内容の記載が個別にファイリングしているので、職員が閲覧し理解を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族の必要な支援を伺い、職員で共有、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の不安、喜びを共有しながら心許せる関係性を築ける様、努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会、電話、手紙等、関係性が継続できる様、支援している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人関係等、手紙、面会、電話にて関係性が継続できる様、支援をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係性の変化を把握しながら、席替え、職員が間に入る、声がけ等、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後のご家族の連絡等、対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、声掛けを行い、表情や発言等で意向、思いを把握するよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	暮らし方等、記載されている書面を読む、ご家族訪問の際にお話を聞くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人のできること、楽しめること、興味のあることを把握し、生活の中に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族とケアについて話しをしている。カンファレンスの際、担当者会議で必要なケアを職員と共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録、申し送りノートに記載し、職員間で共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族の要望を聞き取り、サービスに反映させている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	施設前の公園に散歩をした際、近隣住民と話しをしたり、地域ケアプラザの行事に参加したりと楽しんでもらえるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医のもと、定期的（月2回往診）、必要時に適切な医療が受けられている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の状態、変化を週1訪問看護へ報告、相談し、医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に病院関係者との情報交換は行なっているが、場合に備えての関係づくりまではできていない。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人、ご家族と話し合い、施設で可能なケアを伝え、納得、方針を考えている。地域の方々には運営推進会議で報告し、理解していただく様、努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	カンファレンス、社内研修、申し送り等で対応の方法を共有し実践に繋げている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を定期的に行い、運営推進会議にて報告、地域の方々に意見を伺っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの思い、人格を尊重するよう声掛けをおこなっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自身がどのようにしたいか、希望を伺い、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の思いの時間、都合に合わせた支援になっていることもあるが、できる限り一人ひとりのペースに合わせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その方の好み、思いを重視する支援を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューが決まっていることから好みの食事を召し上がっていただくことは厳しいが行事等には御本人の好みのものを提供するよう努力している。コップを下げる、テーブル拭き、トレイ拭きはお手伝いしていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご本人の状態を把握、職員で共有し状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとり食後に口腔ケアのお声掛けをし、見守り等行いながら口腔ケアをおこなっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人の力、習慣を把握し発揮していただきながら自立した排泄ができるよう、支援している。排泄の失敗が減るよう定時に声掛け、誘導を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	原因、影響を職員間で情報共有し、個別で予防案を考え取り組んでいる。体操、散歩などの運動を毎日取り入れ、水分摂取を把握し便秘の予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとり入浴時に会話をし楽しんでリラックスできる支援を心掛けている。体調が優れない方、入浴拒否の方に対して無理をせず、別日にご案内するなど、ご本人の気持ちを重視している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	職員間で情報共有し、生活リズム、状態に合わせ、休息、睡眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情を個別ファイリングし、職員が定期的に確認、状態に変化がある場合は話し合い、医療に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご自身の嗜好品、生活歴を把握し、楽しめるものを探し、提案している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に散歩に行かれるよう支援している。本人の希望を把握し戸外に出かけるよう努力している。四季の花々を観にドライブに出かけたりして外出の機会を増やしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理ができる方は使用できるよう支援し、その他の方々のご家族、後見人が管理している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	四季に合わせたカードを作成、コメントを書き添えていただき、ご家族に送る支援をおこなっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	行事、季節を取り入れた飾りや壁画等ご入居者様と制作し飾ることで、温かみのある空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースでは、気の合った方と過ごせるよう、娯楽、レクリエーションの際は席を移動し対応している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人、ご家族の意向を尊重し馴染みのある家具、好みのものを置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人ができることを継続していただきながら、他にできることを職員が見つけ、提案、見守りながら一緒に行っている。		

2024年度

事業所名 おもとの郷 東本郷

作成日：2025 年 4 月 25日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	16	備蓄品はありますが、3日分に足りていないものもあるので、買い足して十分に確保しておく。	備蓄品3日分数、賞味期限確認を行い、リストを作成する。	備蓄品リストに元図いて数量、賞味期限の確認を定期的に行い、買い足しを行う。	2ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月